

つがる市議会議員決まる

議長に佐々木慶和氏、副議長に伊藤良二氏就任

2月1日に行われたつがる市議会議員一般選挙で当選した20名を紹介します。
掲載は左上から議席順です(写真下に氏名、年齢、住所記載)。また、2月13日に行
われた市議会臨時会で議長に佐々木慶和氏、副議長に伊藤良二氏が就任しました。

【任 期】

平成27年2月11日から
平成31年2月10日まで



さいとう わたる
齊藤 渡(42)
稲垣町沼館友開1



た なか とおる
田中 透(59)
柏桑野木田福山38-6



さ さ き けいぞう
佐々木敬藏(67)
稲垣町千年上鹿島5-1



は せ がわ えいこ
長谷川榮子(71)
木造越水今井46-2



なり た ひろし
成田 博(59)
富蒔町藪分15



き むら よしひろ
木村 良博(59)
森田町山田清水43



さ とう たかし
佐藤 孝志(66)
森田町床舞緑野33



は せ がわ とおる
長谷川 徹(50)
木造越水今村50



み かみ よう
三上 洋(65)
木造林阿曾沼21-1



の ろ つかさ
野呂 司(57)
木造館岡上稲元155-12



てんさか しょういち
天坂 昭市(61)
木造出来島雉子森堀切119-5



なり た かつこ
成田 克子(64)
木造柴田篠塚1-8



さ さ き なおみつ
佐々木直光(65)
柏稲盛幾世47-4



さ さ き よしかず
佐々木慶和(66)
稲垣町豊川初瀬山34-1



ひらかわ ゆたか
平川 豊(67)
柏玉水8



やまもと きよあき
山本 清秋(68)
木造芦沼13-1



い とう りょうじ
伊藤 良二(64)
木造照日14-2



まつはし しょうり
松橋 勝利(76)
富蒔町里見36



しろ と かつしげ
白戸 勝茂(70)
豊富町屏風山1-38



たかはし さくぞう
高橋 作藏(68)
木造豊田網代54

つがる市農業委員会会長に 山本氏、会長職務代理者に 乳井氏が就任

つがる市農業委員会委員の任期満了に伴う初めての総会が2月12日に行われ、会長に山本康樹氏、会長職務代理者に乳井春光氏が就任しました。



山本 康樹 氏



乳井 春光 氏

くらしの知恵と工夫がずらり 第31回つがる市 くらしの工夫展



市生活改善グループ連絡協議会（中村嘉子会長）主催の「くらしの工夫展」が2月6日、松の館で開催され、多くの市民らでにぎわいました。

会場には、地元の食材を使った新しい料理や生活に役立つアイデア作品など4部門218点が展示され、作り方を覚えようとメモを取る人の姿も見受けられました。開会式で中村会長は「つがる市の伝統の味や新しいアイデアが次の世代へ引き継がれる場となることを願います」とあいさつ。巻き寿司作りの実演や昨年のコンテストで入賞した作品の試食コーナーが人気を集めていました。



写真上／多くの市民らでにぎわう会場
写真左下／人気を集めた試食コーナー
写真右下／アイデア作品を見入る来場者

くらしの創意工夫コンテスト

市長賞



メロンのムース
成田 幸子さん(木造)

知事賞



薄焼き卵のんにく味噌巻き
長谷川たか子さん(木造)

農業委員会賞



ながいもの大葉巻き
山本 雪子さん(木造)

つがるブランド
農産物8品目
利用の部門

津軽
広域農業
共済組合賞



猫ちぐら
野呂時江さん(森田町)

わら工芸品
の部門

JA
つがるに
しきたり
組合賞



ごぼう入りサーターアンダギー
佐々木美由紀さん(稲垣町)

つがるブランド
農産物8品目
利用の部門

JA
ごしよつがる
組合賞



ゴミ箱用袋
秋田谷るみ子さん(木造)

アイデア
作品の部門

縄文の環境・社会・生業を考える



2月14日、つがる市合併10周年記念シンポジウム「どこまでわかったか 縄文の環境・社会・生業」が松の館で開催されました。市内縄文遺跡の発掘調査成果の解説や環境考古学、植物考古学の観点から研究した縄文文化についての講演が行われ、会場に訪れた多くの市民らが熱心に耳を傾けていました。また、東京大学大学院の辻誠一郎教授がコーディネーターを務めたパネルディスカッション「縄文トーク」も行われ、パネリスト3人が縄文人の生活や環境について語り合いました。



東京大学大学院教授
辻 誠一郎 氏
「どこまでわかったか縄文の環境・社会・生業」より

つがる市の環境史と縄文遺跡をまとめた冊子を発行しました。将来、この冊子を片手に市内の遺跡を散策するイベントができればと期待しています。縄文時代の環境の変遷を考える上で、海、平野、山の3つの風土は重要な要素ですが、つがる市は日本海、津軽平野、屏風山が並列して存在するのが特徴的。つがる市の遺跡で海域や陸域のめまぐるしい環境変動に応じながら、移り変わってきた人々の暮らしが理解できます。



総合地球環境学研究所教授
羽生 淳子 氏
「縄文人の主食と縄文社会」

縄文人はクリやクルミなどの植物質食糧を主食とすることで縄文中期まで飛躍的に人口が増えました。しかし人口増加による大量消費が環境問題を招き、後期、晩期に人口減少に陥ったと考えられます。青森県の縄文遺跡は、寒冷化ではなく、環境問題による人口減少の傾向を裏付ける非常に大事な資料です。また、縄文前期の終わり頃から中期にかけて階級格差が生じ、現代社会にも通じる社会構造の変化があったのではないかと考えられています。



市教育委員会学芸員
佐野 忠史 氏
「つがる市の縄文遺跡の10年」

約1万1700年前の地球温暖化によって巨大な氷河がとけ、十三湖から津軽平野に大量の海水が侵入し、市の東側は「古十三湖」といわれる内海が形成されていました。よって縄文時代の人々は市の南側の岩木山北麓や西側の台地（屏風山地帯）で生活していたと考えられます。また、縄文晩期には内海の後退に伴って、田小屋野周辺で暮らしていた人々が亀ヶ岡周辺に移り、低湿地を利用した生活をはじめた可能性がある」と最近の調査で考えられています。



(株)パレオ・ラボ統括部長
佐々木 由香 氏
「縄文時代の植物資源利用」

縄文人は野生のダイズやアズキなどの栽培を開発し、種子を大型化させたと考えられます。縄文前期に東日本でウルシやアサなどの栽培植物が増加し、西日本へ栽培文化が普及しました。また、竹細工は平安時代が最古と考えられていますが、昨年の調査でスズタケを利用した編みカゴが縄文時代に製作されていたとわかりました。生活に合わせて、樹皮、木材、種子など植物のさまざまな部分を複合的に利用するのが縄文人の植物資源利用の特徴です。

冬のつがるを満喫 地球村冬物語



2月8日、毎年恒例の「地球村冬物語」がつがる地球村国際交流広場で開催され、多くの家族連れらが、冬ならではの多彩なイベントを楽しみました。

記録更新!!



バナナボートの完成を祝う参加者

165mのバナナボート完成



「そりでジャンプ池越えゲーム」に挑戦

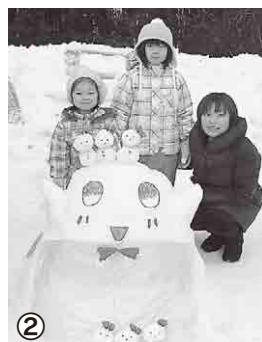
目玉イベントの「世界一長いバナナボート作り」は、約1200人の参加者が165mの長さに挑戦。この日は、バナナ1035本、米粉入りスポンジ550枚、生クリーム200kgの材料が用意されました。参加者はスポンジ生地の上にクリームとバナナを乗せ、スタッフの合図で一斉に生地を巻いて見事完成。息を合わせてゆっくりと持ち上げて完成を祝い、全員で出来たてのバナナボートを味わいました。

会場では、そり滑りや雪だるま作りなど冬ならではの多彩なイベントが行われたほか、姉妹都市・北海道白老町の特産品ブースや津軽地方の道の駅が軒を連ね、来場者は冬の味覚を堪能していました。

また、よさこい知求群会による演舞や豪華賞品が当たる抽選会が会場を盛り上げ、フィナーレには打ち上げ花火が冬の空を幻想的に彩りました。



①



②



③



④

- ① 大いにぎわう道の駅出店ブース
- ② 雪だるま作り大会優勝の浅水さん親子
- ③ 雪上障害物マラソン
- ④ 競技を見ながら楽しむ家族や友人ら
- ⑤ よさこい知求群会の演舞
- ⑥ そりで元気に遊ぶ来場者



⑤



⑥